

策定プロセス訪問調査事例

福岡県水巻町

母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村名(福岡県 水巻町)

記載担当者名(保健婦 河村 真紀 代)

市 町 村		保健所の関与
市町村行政内部の作業		住民参加
<p>【Ⅰ】事例の概要 ◆事例検討に当たって理解しておくべき背景</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口、地理的条件、社会資源等 市町村の組織体性等 住民組織の成熟度等 県の取り組みと保健所の特徴 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 福岡県の北部に位置し、人口約31,000人、面積11.03Km²の人口密度が高い南北に細長い町である。北九州と隣接している関係上、ベッドタウンとして今後も人口が漸増していくことが予想される。また、年間人口の約10%が転出入しているという特徴がある。 旧産炭地であり、生活保護世帯(全国平均の7倍)、母子、父子、養育者世帯の割合の高い町である。また、公営住宅比率も約20%と全国でも上位を占めている。出生数は漸減しており、250~300である。 平成6年2月に策定した高齢者保健福祉計画の作成家庭に保健婦も参加していたことで、計画づくりの手法が学べており、計画づくりに取り組み問題意識も高かった。 	<p>平成8年5月に「母子保健計画策定説明会」を実施した後、8月に1回連絡会を開催した。</p> <p>策定後、広域での情報交換会やアドバイスを望む声もあったが、未実施である。 (遠賀保健所 管内 1市4町)</p>
<p>【Ⅱ】計画策定の準備 ◆計画策定の目的、策定の手法等の合意形成</p> <p>①合意形成のキーマン</p> <p>②範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 首長、財政、他課、議会、住民組織、医師会等 <p>③合意形成の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別調整、会議、研修・勉強会等 <p>④策定体制の有無、構成、運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> 母子保健グループ(保健婦4名)を中心に「エンジェルプラン・母子保健計画の進め方」について話し合い、係全体での合意の下に進めていった。 保健所から提供された資料を基にして母子保健事業のまとめ等を行った後(計10回)、「母子保健計画策定について」の学習会を実施して係内の共通認識を持つよう努めた。 <p>〔課題・問題点等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 予算、人、時間は確保できず通常業務に加えて計画策定を行うというオーバーワークとなった。 関係各課との検討会や課長会議での検討、議会への報告を希望したが、エンゼルプランができていない以上その一部と理解している母子保健計画についても発表できないとの考えから課内のみでの策定に止まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 水巻町の母子保健推進委員(2名)に「エンジェルプラン母子保健計画の進め方」について話し合いから入ってもらい、計画づくりに関する意見を出してもらった。 なお、同委員には月に1回の母子カンファレンスに加えて随時開催した会議にも出席してもらった。
<p>◆その他、計画策定のための環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 予算 人的体制 時間の確保 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 係内、保健婦8人のうち4人が母子保健グループとして主に計画づくりに携わったが、係内でのバックアップ体制はできていた。 また、産業医大の松田先生に逐次指導を受けることとしていた。 	
<p>【Ⅲ】地域の実態、住民ニーズの把握</p> <p>①地域の実態、住民ニーズ把握の視点の整理と共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> キーマン、範囲、手法 <p>検討体制 (【Ⅱ】と同様)</p> <p>②具体の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存資料の活用 住民等との対話 アンケート調査 	<ul style="list-style-type: none"> 関係各課の有する情報については、個別に情報収集を行った。 収集した基礎資料をもとにグループワークを実施し、水巻町の母子保健の実態をまとめた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「母子保健計画策定説明会」の際に母子保健に関する保健所管内の状況をまとめた統計資料(50ページ)を配布した。
<p>【Ⅳ】計画(施策)化</p> <p>①具体の対応方策に関する検討協議と関係者の合意形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 母子保健グループを中心にグループワークで進め、随時スタッフ全員での話し合い(問題点の抽出、理想像、具体的目標の設定、年次計画、体系図)を5回実施した。 検討を進める中で、計画の進捗状況を課長、係長、保健婦の主査に2回説明し、アドバイ 	<ul style="list-style-type: none"> 母子保健推進委員は、策定の最後までグループワークの一員として参加し、アドバイスをを行った。
		<ul style="list-style-type: none"> 平成8年8月に計画の進捗状況についての情報交換、計画策定のポイントについての連絡会を開催した。

<p>②内容 ・具体の目標、数値 目標 評価指標</p>	<p>スを受けた。</p> <p>〔課題・問題点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民ニーズについては、アンケートでしか把握していない。 ・母子保健計画については、エンゼルプランの中の一部という理解を町はしていたので、母子保健計画のみ先に策定することにより、整合性が図れるかという問題がある。 		
<p>【V】計画の具体化 ・9年度予算への反映</p> <p>・計画の進行管理 組織体制</p> <p>・住民、関係機関への 周知等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健事業従事者研修会、カルテ一元化に向けての作成費、子育て講演会、地域の小児科・産婦人科との情報交換会、妊産婦、新生児の訪問指導等の計画に位置づけた事業の予算化が図れた。 ・平成9年5月に開催された政策会議(町長、助役、収入役、4課長)において、計画の主旨説明を行うことができた。 ・マスタープラン作成に保健婦の係長が参加し、地域保健計画の考え方を反映させることができた。 ・住民への周知は今後の課題として残っている。 ・関係各課へは、計画内容を周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てコーナーの利用、子育て講演会の参加状況等から住民の反応を感じている。 	
<p>【VI】全体を通じた事例の まとめ (キーワードも記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題は、今回の母子保健計画を含めた水巻町のエンゼルプランを策定していくことであり、高齢者、母子、精神等保健事業全体を網羅した地域保健計画を策定していくことである。 ・母子保健計画については、その進行管理、組織体制が不明確である。 ・全くの保健婦だけの手づくりの計画策定であり、かなりのオーバーワークとなったが、水巻町の母子保健の実態を把握し事業を整理したことにより、母子保健はまちづくりや子育て支援の一翼を担っているという確認ができた。また、それにより満足度も高く保健婦の事業に対する意識も変わったように思われる。 ・国及び県に対しては、老人保健福祉計画同様に努力義務で終わらせるのではなく、法的、財源的な支援を望む。 ・保健所に対しては、広域で質を高めていく取り組み、リーダーシップの発揮を望む。 		